

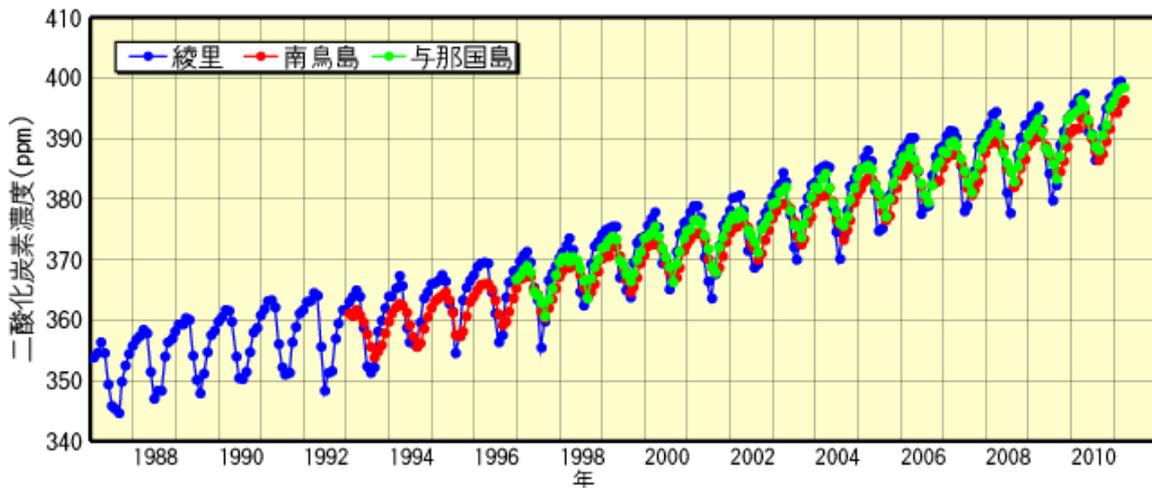
2011年4月までの日本の大気中二酸化炭素濃度について

気象庁が温室効果ガス観測を実施する国内観測地点において、2010年の年平均大気中二酸化炭素濃度は過去最高となりました。濃度の増加率は、この10年間で2.0ppm/年となり、その前の10年間の値(1.7ppm/年)に比べて大きくなっています。

また、2011年4月の大気中二酸化炭素濃度は、観測開始以来の最高値を記録しました。

気象庁は、岩手県大船渡市綾里、東京都小笠原村南鳥島、沖縄県八重山郡与那国島の国内3地点で、大気中の二酸化炭素濃度の観測を実施しています。これらの観測の結果、2010年の年平均値(速報値^(注1))は3地点でそれぞれ393.3ppm、390.5ppm、392.7ppmとこれまでで過去最高となりました。この10年間(2001～2010年)では3地点の平均で2.0ppm/年の割合で増加を続けており、この値は、その前の10年間(1991～2000年)の割合(1.7ppm/年:綾里)に比べて大きくなっています。国内で最初に長期連続観測を開始した綾里においては、観測開始時(1987年)より、42.1ppm濃度が増加しています。

また、年間で最も二酸化炭素濃度の高くなる春季において、今年4月の観測値(速報値)が得られた2地点^(注2)では、396.4ppm(南鳥島)、398.4ppm(与那国島)と、ともに観測開始以来の月平均値の最高値を記録しました。



図：綾里、南鳥島および与那国島における大気中二酸化炭素月平均濃度の経年変化
(ppm:百万分の一)

注1)今回発表するデータは速報値です。今後数か月以内をめどに確定値を算出します。速報値と確定値の差は、大きくても0.1ppm程度の見込みです。

注2)綾里は平成23年(2011年)東北地方太平洋沖地震の影響により、4月の観測値が得られませんでした。

【本件に対する問い合わせ先】

気象庁地球環境・海洋部環境気象管理官付

電話:03-3212-8341(内線:4112)